評価対象者　高校3年生

学校設定科目 SIA 特論での自己評価表の実践

名古屋国際中学校・高等学校　　黒宮 祥男

生徒数	670名	教員数	40名

名古屋市は 2015年にフェアトレードタウンに選定され、2019年には愛知県及び愛知県名古屋市が、SDGs未来都市に選定されるなど、社会課題解決に向けたさまざまな取組をおこなっている地域である。また、名古屋市には国連地域開発センター、JICA中部、名古屋国際センターなど国際交流が盛んな施設もある。本校は、愛知県名古屋市昭和区に位置している私立の中高一貫校である。ユネスコスクール、サステイナブルスクール、文部科学省地域協働事業グローカル型指定校、国際バカロレア・ディプロマ認定校など多彩な活動を積極的に実践している。

ルーブリックについて

P4 参照

「ESD活動自己評価表」の開発に関して、「教員が生徒を評価する」というルーブリックではなく、まず「生徒が自分自身を評価する」というポイントで作成が始まった。それに至る議論の中では、「教員評価は、文章による評価が必要か、数値的評価が必要か」「ESD活動を評価すべきか」「汎用性は難しい」「授業計画がすでに決定している」という点があがった。そして、煮詰まった議論の中、第一に「ESDの要素をどのように生徒の活動に付加していくか」「ESD要素で生徒の生き方をどう変容させるか」を考えようとまとまる。

教員が評価するルーブリックに関しては、「次の段階で」となる。「ESD活動自己評価」は、生徒が自分を評価するルーブリックである。しかし、生徒たちの変容が明確になり、教員が文章で評価をしなければならない時にはとても有効な資料となる。その点を踏まえると職員研修前後に教員の ESD自己評価表としても活用できる可能性もある。

このように「ESD活動自己評価表」は、汎用的な使い方をめざすようなフォームを目指した。学校ごとに本ルーブリックを改良し、使っていただければと思う。

評価手法を適用した実践紹介

実践対象学年：高校 3年生 (46名)
実践対象教科 /科目：[教科]サステイナビリティ[科目]学校設定科目 SIA特論 II

授業計画

❶「ESD活動自己評価表」内の [活動前]欄に現在の自分自身について記入する。
ESDの評価要素についての説明をする。[1時間]

❷ 授業の実施：授業テーマ「未来のまちづくり」
(1)自分の生き方を明確にする。[3時間]
ペアを組み、相手からインタビューをしてもらうことで新しい自分の発見を目指す。
インタビューをした人は、まとめ、発表する。
(2)未来のまちを描く。[2時間]
2030年の自らの生き方を想像する。
(3)レポートにまとめ、共有する。[5時間]
レポートを生徒同士で読み合う時間を設け、コメントを記入する。
(4)まとめ
自分の描く未来と他の生徒が描く未来を共有することで、自らの描く未来を再考する。

❸「ESD活動自己評価表」内の [活動後][未来]欄に記入する。

❹ 記入した内容に関して発表する。
高校卒業後の自らの生き方について多様な要素の連関の必要性に気づく。

生徒の変容

[A] 評価要素の気づきと活用

ESD活動自己評価表にある評価要素には生徒が知らない言葉が多くある。評価表を使用することによって、自らの持つ素養に対するマッチングが行われ、新しい自分の発見・気づきにつながった。また、高校 3年生の進路指導に関してこの評価要素と内容が役に立ったようだ。

[B] 自らの変化への気づき

活動前後に自らの振り返りを行うことで、授業による自らの成長を明確に気づくことができた。また、[未来]を記入させることで、これからの目標やどのような未来が必要かへの気づきにもつながった。

[C] 授業の大切さへの気づき

授業前後に評価することでその変容に気づくことが、授業内容が自分をどのように変化させたかという振り返りにもつながった。授業そのものに対して、「この授業は自分のどのような素養を伸ばすことができるのか」という授業そのものへ探究心ややる気にもつながった。

実践を通しての考察、発見、感想

「ESD活動自己評価表」を使用する前は、ESDの実践を評価することに対して大きな違和感を感じていた。評価をすることを明示することで生徒たちの学習活動の目的が「いかに高い評価を取るか」になると懸念したからだ。そこで、この評価表は、「自

分自身の成長を目で見える形にする」「新しい自分の発見」「未来への新しい希望の発掘」をテーマに、生徒自身が自らを評価するものになった。

「教員が生徒を評価する」は、この評価表から生徒の成長点を見出し、文章化することになる。数値化という点では難しい点があるが、評価表の活用や文章量などの評価素材的は有効であり、評価素材のひとつとしての活用ができる。

本評価表作成に関しては、違和感という点・授業実践は各先生や学校によって違う点・カリキュラムが決まっている点などが難儀であった。そこで行き着いた結論がまず生徒自身の評価表という結論に行き着いた。次の段階は、この評価表を教員がどのように評価するかの評価表が必要になってくるがその点に関しては次の課題として考えていきたい。

評価手法開発にあたり参考にした文献・書籍・教材
・ ACCU(2020)「変容につながる16のアプローチ -SDGsを活かした学校教員の取組 -」

問い合わせ先

学校名	名古屋国際中学校・高等学校
氏名	黒宮 祥男
電話番号	052-858-2200
住所	愛知県名古屋市昭和区広路本町1-16
メールアドレス	kuromiya@nihs.ed.jp

ESD活動自己評価表

年　　組　　番 名前

我が校で育みたい資質・能力	3つの柱	ESDに関する実践活動で意識するコンピテンシー(ESDの評価要素)	自己評価表(コンピテンシーを意識しながら記載してみよう。)					
			[活動前]今の自分を振り返り、どんな力が伸びているかを書こう。		[活動後]活動を通じて、自分はどんな力が伸びたかを書こう。		[未来]伸ばしたい力についてどんな取り組みが必要か、何をしたいかを書こう。	
Ⓐ国際的な視野に立って思考する Ⓑ外国語でコミュニケーションする Ⓒ思いやりと優しさをもち、公平な態度をとる Ⓓ物事を主体的に探究し、問題を解決する Ⓔふりかえりの力をもち、物事を多面的に評価する」	知識技能	持続可能性／SDGsに関する知識・理解・スキル習得	□		□		□	
		持続可能なライフスタイルの実践	□		□		□	
		人権や平和の価値、情報収集・選択・(活用力)	□		□		□	
	思考力判断力表現力	言語化力	□		□		□	
		応用力	□		□		□	
		問題解決能力	□		□		□	
		意思決定力	□		□		□	
		論理的思考力	□		□		□	
		創造力	□		□		□	
		システム思考力	□		□		□	
		批判的思考力	□		□		□	
		(情報収集・選択)・活用力	□		□		□	
		発信力	□		□		□	
		持続可能な地域・国際社会への取組への行動力	□		□		□	
	学びに向かう力人間性	メタ認知能力	□		□		□	
		自己肯定感	□		□		□	
		課題の自分事化	□		□		□	
		多様性と共生の尊重	□		□		□	
		学び続ける力	□		□		□	
		傾聴力	□		□		□	
		リーダーシップ	□		□		□	
		責任感	□		□		□	
		公平性	□		□		□	
		柔軟性	□		□		□	
		困難を乗り越える意思	□		□		□	
		合意形成と協力	□		□		□	